『伝えようさつまの「技」と「心」』

流通最前線情報

「日本製の可能性と伝統工芸の新たな取組み」

メイド・イン・ジャパン・プロジェクト株式会社
MP事業部　プロデュースルーム　藤村　京子さん

『THE COVER NIPPON』店内写真

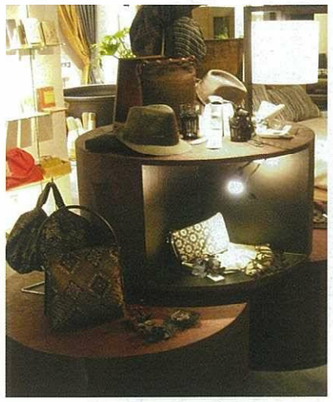
メイド・イン・ジャパン・プロジェクト(株)は、「継承と発展―日本文化のアイデンティティーの確立」を企業理念とし、日本のモノづくり文化を支援することを目的として設立しました。その企業理念のもとに、当社は、東京ミッドタウン(六本木)に『THE COVER NIPPON』(ジカバー・ニッポン)という店舗を今年3月末にオープンしました。店内で取り扱うものすべてが日本製という、ありそうでなかったコンセプトのもと、日本各地から、衣食住すべての分野のものを取り扱っております。

また、THE COVER NIPPONでは、毎月「NIPPONSAN」と名付けた企画展において、地方の産品を1ヶ月ずつ展示、販売しております。

10月は「薩摩展」を開催し、JAPANブランドの取り組みである、大島紬と薩摩切子を中心に、鹿児島の産品をご紹介しております。特に大島紬においては、当社がコンサルタントとして関わらせていただき、新しい展開をご提案しております。大島紬というファブリック自体のもつ美しさ、質の高さに着目し、『SOF』(super oriental fabric)という統一ブランド名を作成し、帽子、ネクタイ、バックなどの一連の商品を発表しております。

長い歴史と伝統を背景に、強いブランド力をもつ大島紬は、ある層に対しては強力な売りになりますが、馴染みのない層にとっては、関係のないものと捉えられがちです。その既成概念を外し、そのモノとしての美しさに気づいていただくために、敢えて「大島紬」というブランドを表にだしておりません。そのことにより幅広い世代に向け、商品自体の魅力に気づいていただけます。現在、店舗での販売をしておりますが、男女・年代問わず、幅広い層に興味を持っていただけております。鹿児島には、大島紬、薩摩切子のほかにも様々な工芸品、物産品があるかと思います。そのもの自体がもつ魅力を客観的に捕らえることによって、また新しい展開の可能性が広がってくるのではないでしょうか。

店舗において感じる、消費者がもつ日本製品に対するイメージは、品質の高さによる安心感や信頼感、日本人として誇れる美意識の高さ、また研ぎ澄まされた技術力など、かなり好意的なものです。日本でモノづくりに携わっておられる方々には、そのイメージとうまく連動しながら、より高付加価値の商品を市場に送り出していただくことを期待しています。


「薩摩展」のディスプレイ

『特産品　さつまの誇り　活かせ先人の知恵』

協会と手をつなぐ団体

鹿児島県特用林産振興会

事務局(鹿児島県林業振興課特用林産係)　福満　典彦

県内産特用林産物の消費拡大を！

鹿児島県特用林産振興会は、特用林産物(しいたけ、たけのこなど)の生産・消費拡大を促進することを目的に、県内の11団体で組織しております。

活動としては、特用林産物の紹介や宣伝を行うなどの消費拡大活動や、生産技術等の取得を目的とした研修会の開催などを行っております。

特に、毎年10月15日のきのこの日には、本県産原木しいたけの需要拡大を図るため、県椎茸農協や県特産品協会と連携して、「鹿児島原木しいたけフェア」を実施しており、今年も10月11日から15日までの5日間、県産業会館鹿児島ブランドショップにおいて開催しました。会場では、生しいたけや乾しいたけ、しいたけ加工品等の展示即売やしいたけ料理の紹介など、しいたけの良さを広くPRすることができました。

今後とも、本県特用林産物の生産、消費拡大を促進することとしておりますので、県特産品協会会員の皆様の御協力をよろしくお願いいたします。

多くのお客様でにぎわった今年の「しいたけフェア」

『活かすは「地産」きめ手は「地消」』

世界に飛躍する特産品
香港市場動向レポート

守っていきたい　高めていきたい「食の安心・安全」

鹿児島県香港事務所
吹留(ひいどめ)　誠吾

今年1月に香港で開催された鹿児島商談会

香港は、日本食品関係の物産フェアや商談会が頻繁に開催される都市の一つだろう。2006年度(06年4月～07年3月)、当事務所で把握しているだけでも、今年1月、伊藤知事も来港し開催した本県のフェア、商談会を含め、物産フェア11回、商談会4回に上る。農水産物を中心とした県産品を海外に売り込みたいと考える自治体等から「規制が少なく、かつ、多少高額となる日本食品を購入してくれる中・高所得者或いは海外駐在員も多いので、開催にあたり適地」と判断されているからであろう。一方、「そうはいっても人口700万人でしょ」という意見もあると思うが、中国大陸から香港への人の流れが拡大するにつれ、大陸華南地域の富裕層が週末香港にやってきて、香港の日系スーパーで大量に食品や日用品を購入する傾向にあり「中国人消費者に対するショーウインドー」的役割もここ香港は担いつつある。

今年度、農水省が約8ヶ月間、日本産農産物の常設販売コーナーを設置したのが大陸にもっとも近い場所にある日系スーパーであることも、ある程度その傾向を見据えたものだろうと推測される。

その香港市場が日本食品に期待しているものと言えば、高品質はもとより、やはり「安心と安全」といえるだろう。ここ香港は、第1次産業のGDP構成比が2004年の数字で0.1%ときわめて低く、当然、食品のほとんどを海外からの輸入に頼っている。そして、一番の輸入相手国が約26%を占める中国大陸であり、中国食品の安全性の問題は対岸の火事ではなく「日常茶飯事、すぐそこにある危機」である。さらに言えば、危険度の度合いが日本のそれとはくらべものにならないくらい高い。事件を報道する記事には、「発ガン性物質」「毒」「殺虫剤」などの言葉が並び、誤解をおそれずいえば、日本の同種事件は「かわいいもの」である。

9月中旬、中国経済成長を牽引している広東省の省都・広州市で開催されたジャパンフェア(いろいろな業種の日本企業が出展した見本市)においても最も広州市民の関心が高かったのは食品関係企業のブースであった。現在のように中国食品の安全性の危機が叫ばれるほど、安心・安全である日本食品の存在感は際立ち、海外におけるビジネスチャンスは広がっていくように思われる。そして今後、海外で戦っていくためには、その優位性を失わないように、食の安心・安全を守り、品質を高めていく必要があるだろう。

ジャパンフェア in 広州で、JAの米の試食コーナーに殺到する来場者

協会と手をつなぐ団体

ねんりんピック鹿児島2008実行委員会

事務局長(鹿児島県ねんりんピック総括監)　灰床　義博氏

「ねんりんピック」で「本物。鹿児島県」の「魅力」・「元気」を情報発信！

「ねんりんピック」は、厚生労働省、地元自治体、(財)長寿社会開発センターの主催で、毎年開催される「全国健康福祉祭」の愛称で、60歳以上を中心とするあらゆる世代が参加するスポーツ、文化、健康、福祉の総合的な祭典です。

平成20年10月25日(土)から28日(火)まで開催される「ねんりんピック鹿児島2008」では、健康フェア、地域文化伝承館などのほか、卓球、水泳、民謡など25種目のスポーツ・文化交流大会が県内10市3町で行われます。また、7つのSを中心に、様々な特産品の宣伝、オプショナルツアーの実施などにより、「本物。鹿児島県」の「魅力」・「元気」を積極的に情報発信し、鹿児島らしい「県民総参加」の大会にしたいと考えております。

県特産品協会会員の皆様方におかれましても、延べ50万人が集まると見込まれる大会を特産品の情報発信の場として積極的に御活用いただきますとともに、御支援・御協力をよろしくお願い申し上げます。

昨年10月開催された「ねんりんピック静岡2006」